

群馬県 御中

# 分析レポート

土屋文明記念文学館で「ことば」をどんな形で感じたいですか？



2025年11月28日



# 意見募集の概要・実施結果

- **調査方法**：デジタルツール「PoliPoli Gov」を用いたインターネットリサーチ
  - **意見募集のテーマ**
    - 土屋文明記念文学館で「ことば」をどんな形で感じたいですか？
  - **調査期間**：2025/09/18～2025/10/27（40日間）
  - **調査地域**：全国オンライン
  - **ページ閲覧数**：482PV
  - **総コメントユーザー数**：61人（\*ユーザーIDの重複を削除した値より、ユニークユーザー(UU)数を算出）
  - **総コメント投稿数**：64件（\*コメント公開基準に抵触する非公開コメントを除外した値を算出）
    - ※総コメントユーザー数5件・投稿数8件に、属性非回答のエラーがあり計上からは除外
  - **回答者の属性（必須回答）**：
    - あなたと群馬県の関わり
    - 年代
    - 性別

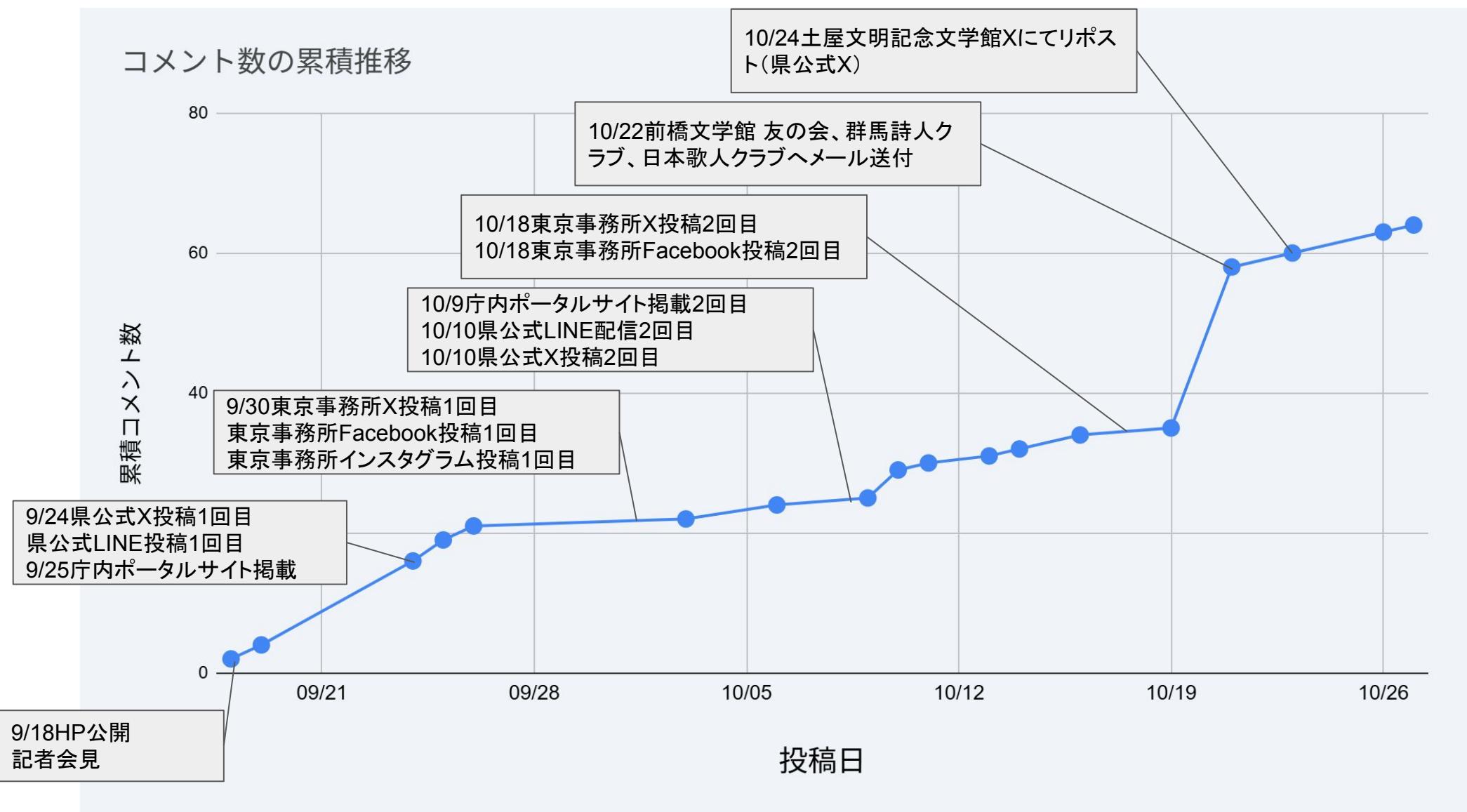
## 意見募集の仕組み



※プラットフォーム内のコミュニティを健全に保つため、投稿されたコメントが攻撃的な内容や広告目的と判断された場合に、運営側でコメントを非公開とします。



## コメント推移



# 意見募集の概要・実施結果 | 全コメントにおけるユーザー属性

あなたと群馬県の関わりの分布

群馬を訪れたことはない

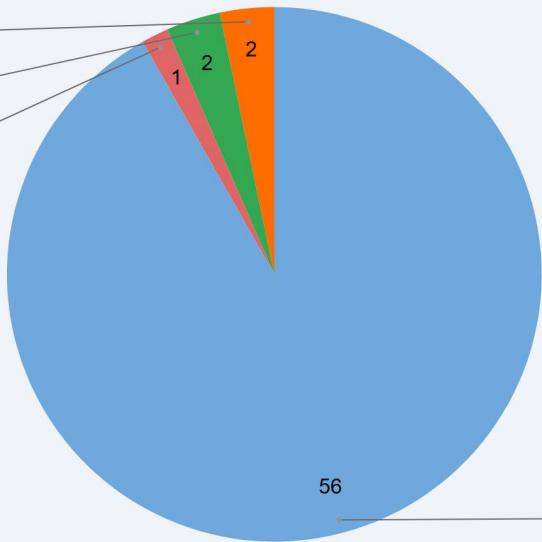
3.3%

過去、群馬に居住・通勤/通学した

3.3%

観光などで群馬を訪れた

1.6%



群馬に居住・通勤・通学している  
91.8%

あなたの年代の分布 (円グラフ)

70代以上

1.6%

60代

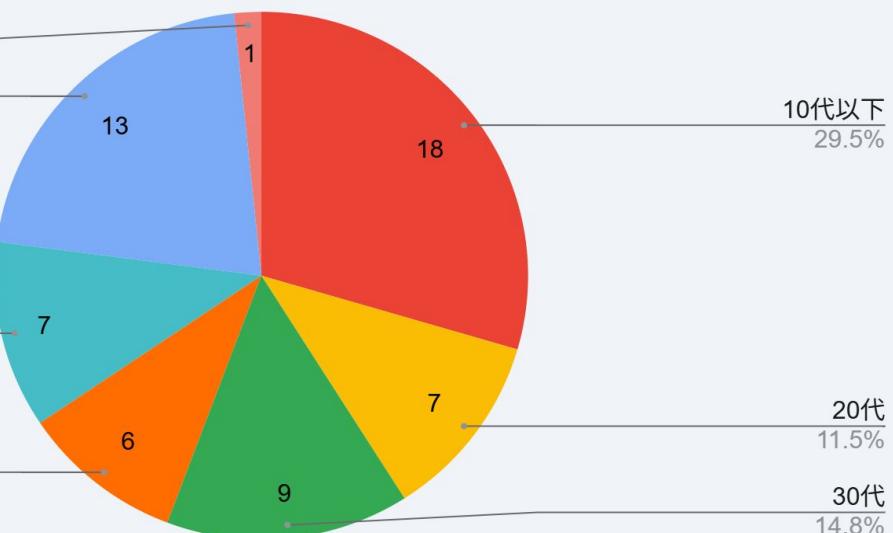
21.3%

50代

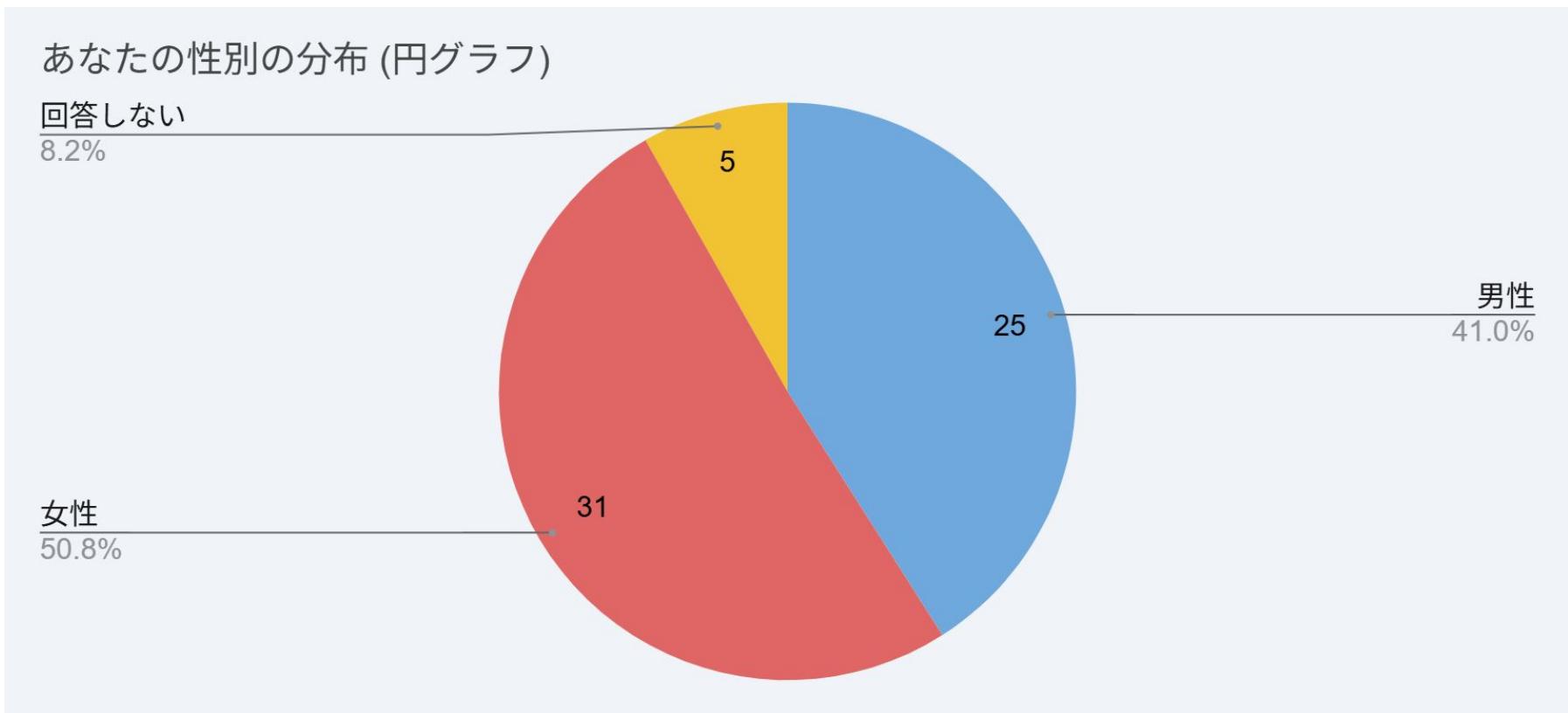
11.5%

40代

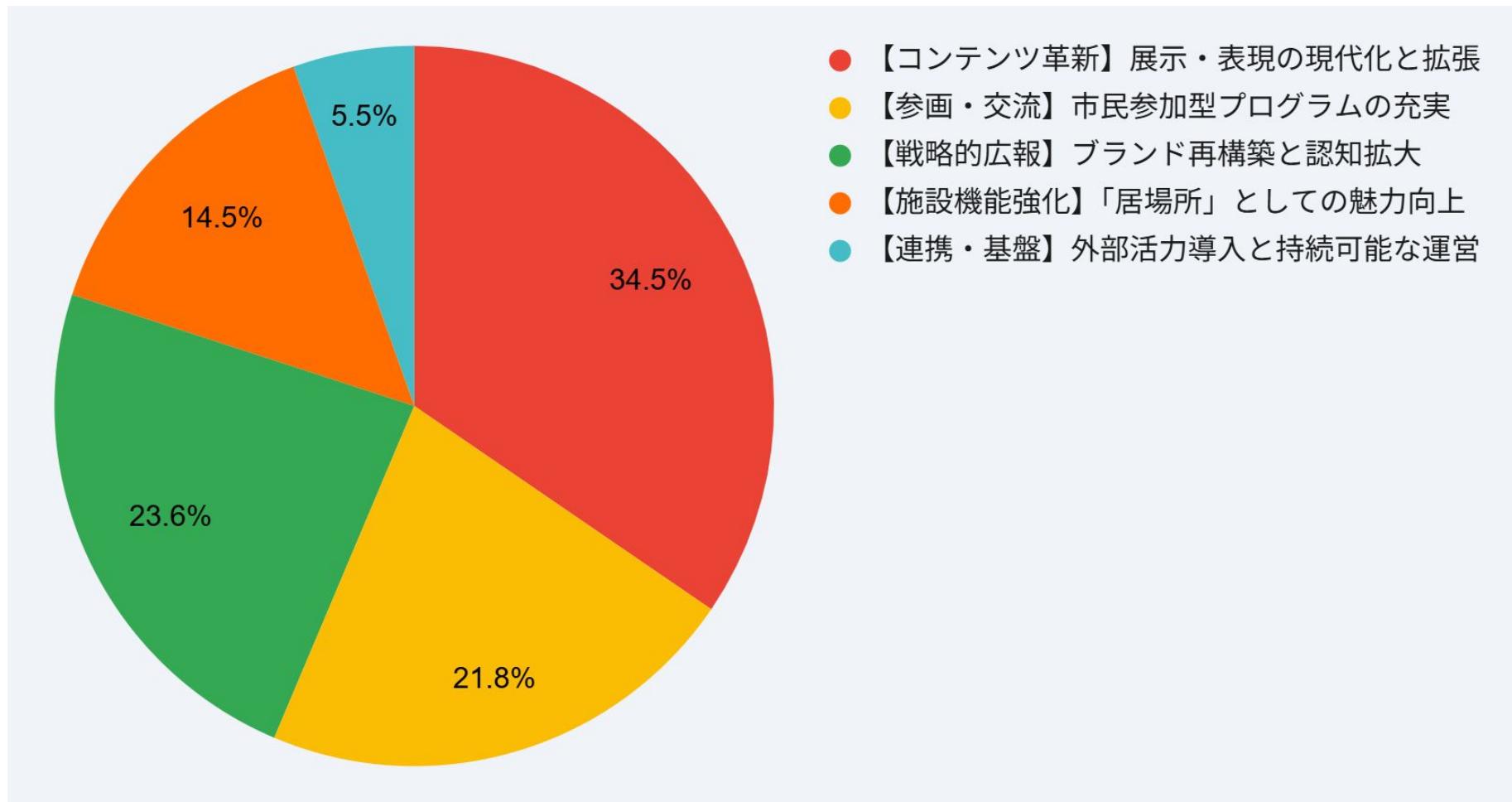
9.8%



## 意見募集の概要・実施結果 | 全コメントにおけるユーザー属性



## カテゴリごとの分析 | コメントを8つのカテゴリに分類



## カテゴリ

---

全件のコメントを下記5つのカテゴリに分類しました

- コンテンツ革新:展示・表現の現代化と拡張
- 施設機能強化:「居場所」としての魅力向上
- 参画・交流:市民参加型プログラムの充実
- 戦略的広報:ブランド再構築と認知拡大
- 連携・基盤:外部活力導入と持続可能な運営

## カテゴリ詳細

全件のコメントを下記5つのカテゴリに分類しました

カテゴリ	コメント概要
【コンテンツ革新】展示・表現の現代化と拡張	<p>キーワード: 五感体験、プロジェクトマッピング、現代語訳、AI活用、アニメコラボ 概要: 単に資料を展示するだけでなく、五感を通じて直感的に「ことば」を感じられる体験型展示を求める声が多数寄せられています。特に、プロジェクトマッピング等のデジタル技術の活用や、短歌を現代風のリズムや若者言葉に変換して紹介するなど、時代や若者の感覚に合わせた表現の拡張が有効だと考えられています。</p>
【施設機能強化】「居場所」としての魅力向上	<p>キーワード: カフェ、コラボメニュー、SNS映え、サードプレイス、景観活用 概要: 文学館を学習施設としてだけでなく、日常的に立ち寄れる「居場所」として利用したいという意見が目立ちます。作品をモチーフにしたメニューを提供するカフェの設置や、SNS映えする空間演出、周辺の自然や古墳を含めたロケーションの活用により、滞在の快適性と誘引力を高めることが重要視されています。</p>
【参画・交流】市民参加型プログラムの充実	<p>キーワード: ワークショップ、創作体験、読書会、参加型、コミュニティ 概要: 「見る」だけの受動的な鑑賞から、「作る」「語る」といった能動的な参加への転換が求められています。短歌や書道の創作ワークショップ、参加者同士で感想を共有する読書会など、来館者が主体的に関わり、双方のコミュニケーションが生まれるプログラムの充実が必要だと考えられています。</p>

## カテゴリ詳細

全件のコメントを下記7つのカテゴリに分類しました

カテゴリ	コメント概要
<b>【戦略的広報】ブランド再構築と認知拡大</b>	<p>キーワード: 知名度向上、インフルエンサー、ターゲット戦略、グッズ展開、イメージ刷新 概要: 土屋文明や施設の知名度不足という課題に対し、従来の枠を超えたマーケティング戦略を求める提案が多数を占めています。インフルエンサーによる発信や、若者に響くグッズ（アクスタ等）の開発、さらには施設の名称やイメージ自体の刷新など、ターゲット層の関心を引くための戦略的なアプローチが不可欠とされています。</p>
<b>【連携・基盤】外部活力導入と持続可能な運営</b>	<p>キーワード: 学校連携、外部出張、DX（デジタルトランスフォーメーション）、多言語対応、アクセシビリティ 概要: 施設への来館を待つだけでなく、学校や商業施設など生活圏へ出向くアウトリーチ活動の重要性が指摘されています。また、VRやアバターを活用したデジタル文学館の構築や多言語対応など、物理的・心理的な距離を解消し、より多様な人々がアクセスできる持続可能な基盤づくりが有効だと考えられています。</p>

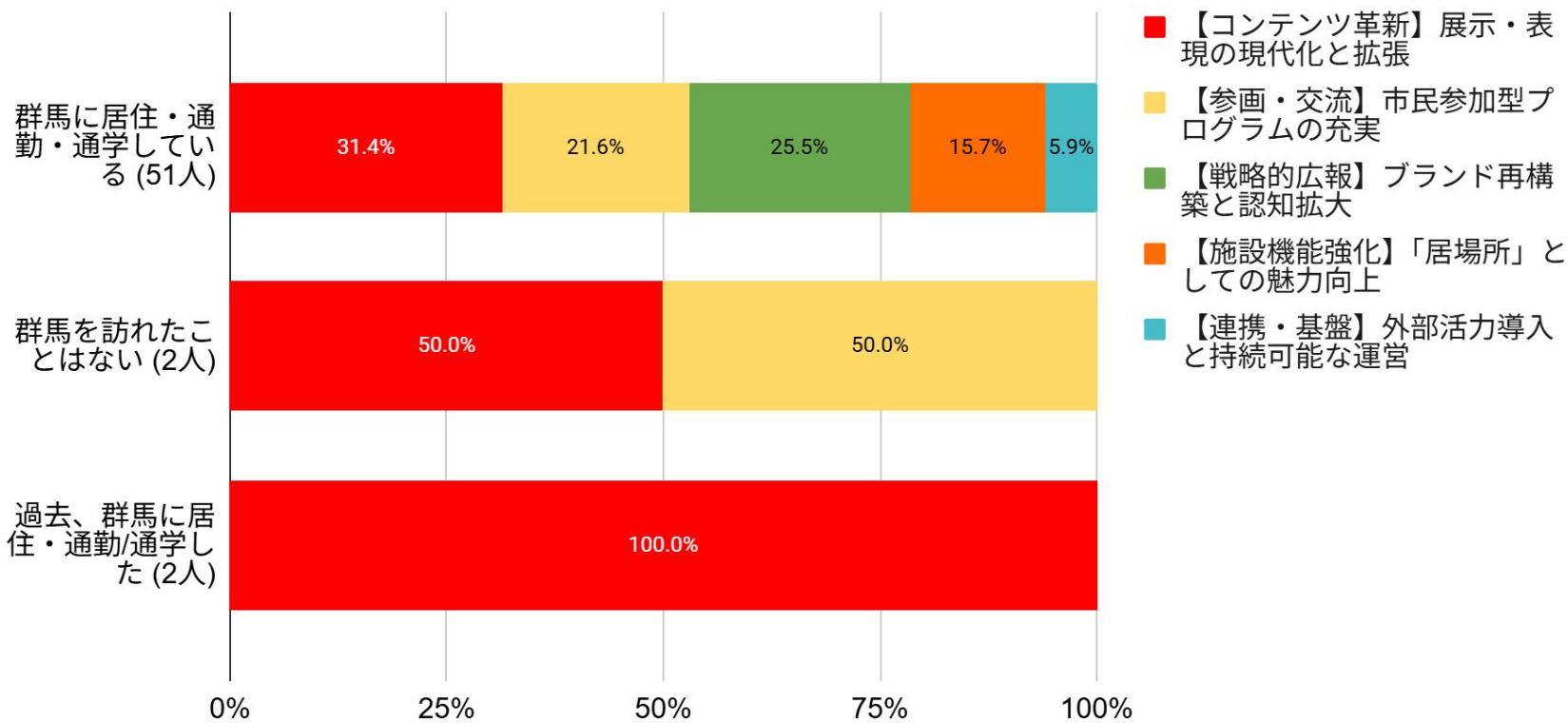
# クロス分析と考察

# 群馬県の関わり × カテゴリ のクロス集計

サンプル数が少ないものの群馬県との関わりが「現在はない／薄い」層では、ニーズがほぼ【コンテンツ革新】と【参画・交流】に集約しており、まずは「ことば」を直感的に楽しめる展示体験や、参加しやすいプログラムの設計が来館のきっかけとして重視されていることがうかがえます。

一方で、群馬に居住・通勤・通学している層では、【コンテンツ革新】を軸にしながらも【戦略的広報】【施設機能強化】【連携・基盤】まで幅広く意見が分散しており、文学館のブランド発信や「居場所」としての機能、学校・地域との連携など、日常生活の延長線上での関わり方を多層的に描く期待が立ち上がっています。

あなたと群馬県の関わり × カテゴリ のクロス集計



## 年代 × カテゴリ のクロス集計

年代別に見ると、10代～30代では【コンテンツ革新】が3～5割を占め、【戦略的広報】や【参画・交流】も一定割合を占めており、「まずはおもしろく・わかりやすく触れられるコンテンツ」と「それをどう伝えるか」が関心の中心になっている様子がうかがえます。

一方で40代・50代では【参画・交流】と【戦略的広報】がボリュームゾーンとなり、さらに 40代では【連携・基盤】、60代では【施設機能強化】が相対的に高いなど、働き盛り～シニア層ほど「参加プログラムの設計」「地域・外部との連携」「日常的な居場所としての機能」といった、運営や場づくりの視点を含んだ要望が強まっている構図が見えます。若年層にはコンテンツと発信のアップデートで「まず来たくなる理由」をつくりつつ、中高年層には継続的に関わり続けられるプログラム設計や居場所性の向上を提案していく、といった世代別の打ち手の描き分けが有効と言えそうです。

あなたの年代 × カテゴリ のクロス集計

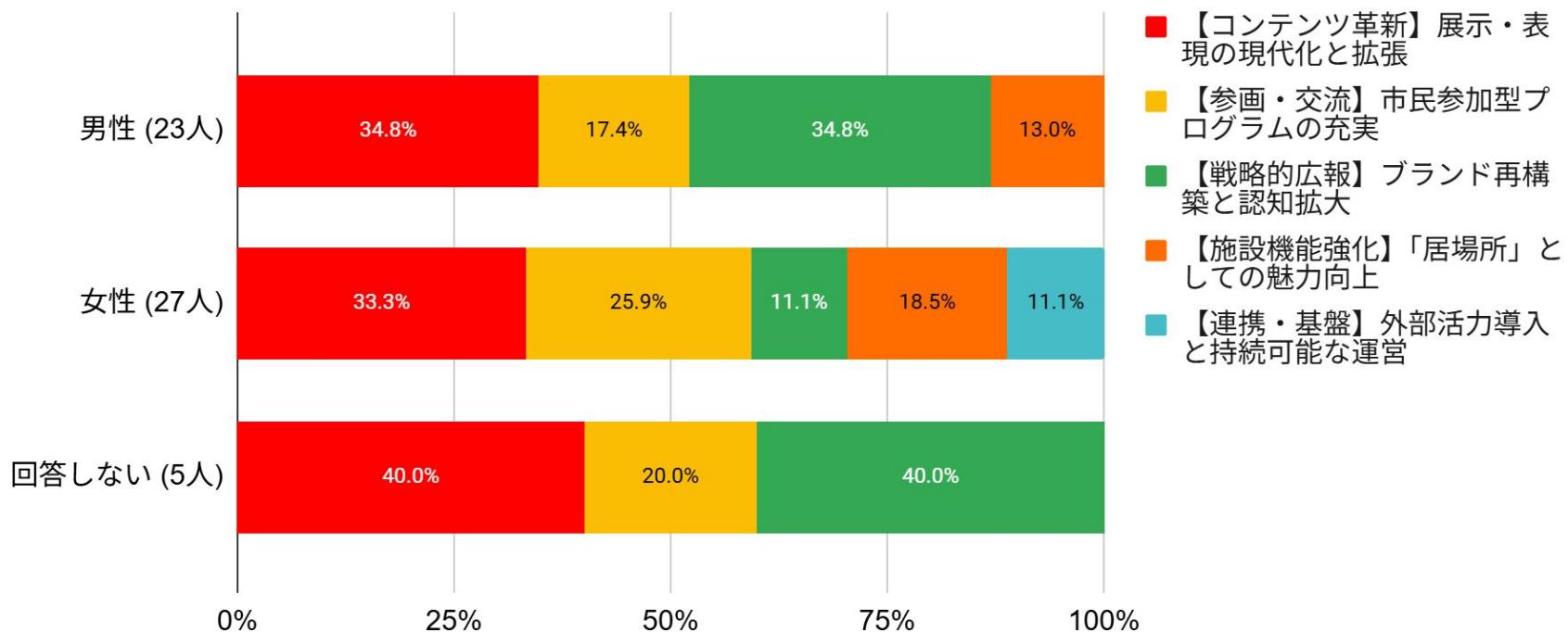


## 性別 × カテゴリ のクロス集計

男女別で見ると、いずれも【コンテンツ革新】が3~4割程度と共通して高く、「展示・表現そのものをアップデートしてほしい」というニーズは性別を問わずベースラインとして存在していることがわかります。

一方で、その先に求めるものにはやや差が見えます。男性は【戦略的広報】が同程度(約3分の1)と突出しており、「どう魅力を外に伝え、ブランドとして位置づけていくか」という発信面への関心が相対的に強い構図です。これに対し女性は、【参画・交流】【施設機能強化】【連携・基盤】の3カテゴリに分散しており、市民参加型プログラムの充実や「居場所」としての環境整備、外部との連携など、場づくりや運営のあり方まで含めて多面的にイメージしていることがうかがえます。

あなたの性別 × カテゴリ のクロス集計



# カテゴリごとの 代表的なコメント

## 代表的なコメント 【コンテンツ革新】展示・表現の現代化と拡張

- どんな形で感じたいか、という問い合わせに対しては、プロジェクトマッピング等を利用してすることで、より立体的且つ体験的に五感を通じて「ことば」を感じてみたいと思います。今回の文学館のような施設は、娯楽や刺激を求める若い世代には人気がありません。その分野に興味のある人の来館だけでなく、若者を惹きつけるような魅力が伴つくると活発になって良いと思います。,群馬に居住・通勤・通学している,10代以下
- 土屋文明記念文学館、年に何回か行きます。落ち着いた雰囲気のいい文学館だと思います😊。最近では、浮世絵の企画展にも行きました。「ことば」をどんな形で感じたいですか?ということで、電子図書館があるのに、電子文学館は余り聞かないですよね、ただ単に私が知らないだけかもしれないですが、今は車を運転して行けますが、あと二十年後、三十年後多分生きていると思いますが、文学館には行けないでしょう。そんな時、スマホやタブレットで、文明先生の展示や企画展の展示をバーチャルで観覧出来ると、老後の楽しみになるかな?と思います。欲を言うなら、アバターで参加出来るとなおいいですね。,群馬に居住・通勤・通学している,50代
- 「デザインあ展」のように五感で楽しめ、SNSでも発信しやすい展示を希望。,群馬に居住・通勤・通学している,20代

## 【参画・交流】市民参加型プログラムの充実

- 実際に短歌の書き方などを体験できる機会があるといい群馬に居住・通勤・通学している10代以下
- 初心者向けの、短歌を実際に作ってみる講座などあれば行ってみたいです。文学館の周辺を歩きながら創作をしてみるなど。本を読む機会 자체が減っているので、定期的な読書会など文学館で開催していただけないと嬉しいです。展示を見て気になったものがあっても、その後実際に読むまでのハードルがなかなか高いので....。群馬に居住・通勤・通学している20代
- 伊勢崎在住の親子です。私と息子は毎年夏休みに行くのを楽しみにしています！確かに足を運ぶのはイベント時(企画展・スタンプラリー)が主だっています。でも、毎回行くたびに企画展など工夫を凝らしていて訪問頻度は多くはないのですが、作品の中に入ったような気分になり、原画など普段見られない体験が出来るので、個人的に大好きな場所の一つです。  
いくつか息子と考えたのでコメントします。  
・競技カルタの開催(百人一首または上毛かるた)、書道パフォーマンス(高校生や入館者的人が体験する)、土屋さんのゆるキャラの着ぐるみを作って挨拶回り、館の短くて、頭に残るようなテーマソングを作って、お勧めの皆さんや、関係者の皆さんバックヤード(企画展示の様子)や、ちょいダンス画像をikTokやインスタのリールなどに載せる、グッズ販売や群馬のお土産などを充実させる。周囲に食事処があまりないので、食べ物の販売などや、来館特典として何か配布する群馬に居住・通勤・通学している40代

## 代表的なコメント 【戦略的広報】ブランド再構築と認知拡大

- ネット広告やテレビコマーシャルなどで宣伝して土屋文明記念文学館の名前が日常の生活の中で耳に入ってくるような環境を整えたら良いのではないか群馬に居住・通勤・通学している10代以下
- 名前は知っているが行ったことは無い。なぜかというと、どんな利点があるかが全く分からず。特殊な図書館ということだろうか。やはり行ったらどんなメリットがあるかをPRできると良いのではないか?,群馬に居住・通勤・通学している40代
- 読書が趣味の者です。昭和の文豪も現代作家も比較的好き嫌いなく読んでいる方だと思うので、ことばは日常であり生活であり大事なものです。(中略)  
「土屋文明」だけだと弱いですね。群馬県民でもよく知らないのにわざわざ文学館までお金を払って行こうと思うわけがない。(中略)  
まずは文学館の名称から再検討されてはいかがでしょうか。群馬に居住・通勤・通学している50代

## 代表的なコメント 【施設機能強化】「居場所」としての魅力向上

- 文学館併設レストランはロケーションは最高だが値段が高く、気軽に利用しづらいと感じています。中略  
日本絹の里のように、展示後に手頃な価格で「ほっこり」できるセルフ式カフェや、平日は無人コンビニ型・  
週末はカフェなど、人件費を抑えつつまた来たくなるくつろぎスペースがあると良いと思います。群馬に居  
住・通勤・通学している、60代
- 私は土屋文明記念文学館の名前は聞いたことがありました、実際に訪れたことはありませんでした。美  
術館等を訪れる中でこんなのがあったら魅力的だなと思う点として、館内に『ことば』をつかったcafeや食事  
スペースがあつたら素敵だなと思います言葉の形にかたどられたカステラなどの簡単な食べ物が食べれる  
場所があればSNSが発達している現在訪れる人が増えるのではないかと思います。群馬に居住・通勤・  
通学している、20代
- 外観が寂しく、どんな建物なのかがよく分からない。キッチンカーを呼んだり、装飾をしたりして、外から見て  
興味を引くきっかけがあるといいと思った。群馬に居住・通勤・通学している10代以下

## 代表的なコメント 【連携・基盤】外部活力導入と持続可能な運営

- 私も今回初めて知りました もっと人が集まる場所例えばイオンや日帰り温泉施設等でイベントを開催するとか学校で生徒達保護者達に向けた講座や講演会を企画するのはどうでしょうか群馬に居住・通勤・通学している,60代
- 高校への通学中に目の前を通るので土屋文明記念文学館の存在自体は知っている。あんびるやすこさんの作品展が一番記憶に残っていて、なつかしい本なので行ってみたかったけどタイミングがなかった,群馬に居住・通勤・通学している10代以下
- "文明記念館あたしは大好きです。ただ、に乗らないので交通が少し不便です。常設展の短歌のもすごく好きです。企画展とコラボしたカフェをやると今の時代結構人が来ると思います。常設展の短歌もたくさんあるから、企画展がないときはそのコラボカフェでも良いと思いますし、何か行く度に発見があるようにする工夫があれば良いのではと思います。具体的には、何かをモチーフにしたクッキーとかケーキとかを作るなど。",群馬に居住・通勤・通学している40代

# 全体考察

# 全体考察

## 1 総合計画や文化進行指針から見た「土屋文明」のポジション

総合計画では、文化分野について

- **県立文化施設等の発信力強化**

「コアなファンを中心に来館者が限定」と課題が整理され、「誰もが・何度も楽しめ、群馬県の魅力を実感できる企画展」「デジタル技術等を活用した展示・多言語化」を進める方針が示されています。

- **文化を生かした地域づくり・文化観光**

伝統文化の保存・承継と同時に、文化資源を観光・地域振興に生かし、経済の好循環を生むことがめざされています。

- 高崎・安中地域は、古墳や上野三碑などの歴史文化資源と、高崎芸術劇場等の文化施設が集積する「群馬の玄関口」と位置づけられています。

- 

土屋文明記念文学館は、まさに

**「歴史文化資源(古墳群) × 県立文化施設 × ことば・文学」**

が重なる場所であり、総合計画が描く「文化を生かした地域づくり・文化観光」の実験場になりうるポジションと言えます。

文化振興指針でも、

- 文化を担う人づくり

- ボーダレスな地域・世代間のつながり

- 文化からの新たな価値創出

といった方向が示されており、「来館者=鑑賞者」から「来館者=創り手・発信者」へ という転換が求められていると整理できます。

## 2 住民ニーズ・課題・ポテンシャル

- 本レポートでは、全コメントを  
①コンテンツ革新 ②施設機能強化 ③参画・交流 ④戦略的広報 ⑤連携・基盤の5カテゴリに整理しています。
- コメント概要からは、
  - コンテンツ革新: 五感体験・プロジェクトマッピング・現代語訳・アニメ／声優コラボなど「ことば×デジタル×体験」への期待、
  - 施設機能強化: カフェ・サードプレイス・景観活用など「居場所」としての魅力向上、
  - 参画・交流: ワークショップ・創作体験・読書会などの参加型プログラム、が特に強く表れています。
- クロス分析からは、
  - 群馬との関わりが薄い層ほど「展示の分かりやすさ・情報発信」にニーズが集中し、
  - 関わりが深い層ほど「参画・居場所・連携」など複合的な要望が立ち上がる構図が確認できます。
- 戰略的広報・連携カテゴリでは、「土屋文明・施設の知名度不足」「名称のわかりにくさ」「マーケティング・ブランド戦略の必要性」、さらに「学校・商業施設へのアウトリーチ」「デジタル文学館・多言語対応」など、構造課題と解決オプションがセットで示されています。
- 以上から、「特定の人物や事績、歴史などを称え、後世に伝えるために設けられた施設」としての役割は維持しつつ、ことばを軸に世代・地域・他分野をつなぐ“開かれた文化拠点”へ転換することが、総合計画及び文化振興計画と住民ニーズの両方から要請されていると整理できます。

## 3 土屋文明記念文学館としての今後の取り組み方向性

### ① コンテンツ革新+戦略的広報

「ことば × デジタル × 体験」で、若年層にも直感的に伝わる展示・動画SNS発信を強化し、「よく分からない記念館」から「行ってみたい“ことばの場”」へ転換することが考えられます。

### ② 参画・交流の仕組みづくり

世代別の短歌・創作講座や読書会などを通じて、鑑賞中心から「県民がことばの表現者になる場」へシフトし、文化を担う人づくりに貢献することが考えられます。

### ③ 居場所機能の強化

手頃なカフェやラウンジ、執筆・読書スペース、将来的なオンライン／バーチャル展示を整備し、「イベント時だけ行く場所」から「日常的に通いたくなるサードプレイス」への整備が考えられます。

### ④ 連携・基盤づくり

古墳群・かみつけの里・高崎駅周辺、学校・書店・商業施設との連携企画やスタンプラリー等でエリア一体の文化観光ルートを形成し、協賛・パートナーシップを含む持続可能な運営基盤を構築することが考えられます。

*PoliPoli* Gov